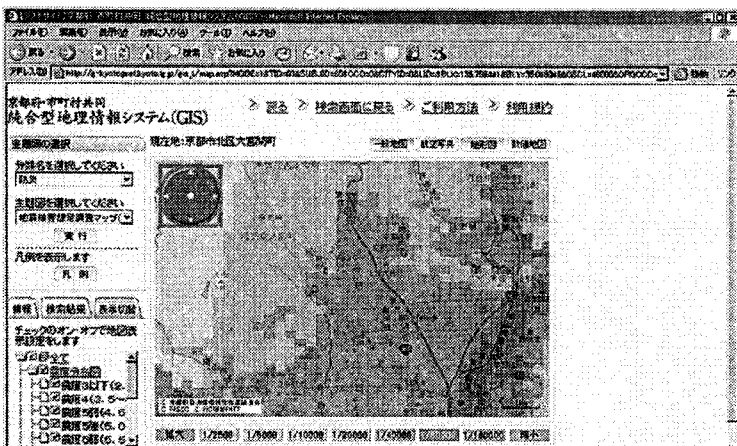


大地震時の震度や液状化危険度

地域単位で地図に表示

阪神・淡路大震災から十四年を迎え、京都府は大規模地震が起きた場合の震度や液状化危険度などを地図上に二百五十府四方単位で表示できるホームページ（HP）を新たに作った。地震に応じて府内の各地域で想定される震度などを色分けして細かく表示し、大地震への備えに役立ててもらおう。今月下旬から公開する。

府は二〇〇五年度か、書想定調査を実施。公から昨年五月まで地震被 共工事の地盤調査など



震度などを色分けして表示する京都府の地震被害想定ホームページ画面

府がHP 23の震源想定

を参考に、府内や周辺を走る二十二の断層と東南海・南海の計二十三の震源で地震が発生した場合、それぞれ予想される死亡者数や建物の全壊数などを割り出した。

調査結果は府のホームページで公開しているが、地域単位で細かな震度や液状化予想などは表示していなかった。

新たなホームページは、電子地図上に各種情報を載せられる地理情報システム（GIS）を活用。調べたい断層を選択すれば、二百五十府四方単位で震度と揺れやすさを七段階、液状化は四段階に色分けして地図に表示される。縮尺も四万、八万、十六万分の一の三段階で見ることができ、住所からも検索できるため、親類や知人宅周

辺なども調べられる。府は「実際に危険性を確認してもらい、耐震改修の実施にもつなげれば」（危機管理・防災課）としている。

十六日には、花折断層帯を震源とする地震を想定した関係団体との訓練も行う。

（三村智哉）